

講 演 会

蛋白質研究におけるアルギニン：作用機序から可溶化、クロマトグラフィーへの利用まで

津本浩平博士

東京大学大学院新領域創成科学研究科助教授

京都大学化学研究所客員助教授

津本博士は、構造情報に基づくタンパク質（特に抗体）の相互作用の特異性・親和性創出機構の解明と応用、添加剤とタンパク質の相互作用機構解明とタンパク質可溶化技術の開発の研究などで顕著な成果をあげておられる気鋭の研究者です。また、本年度の化研の客員助教授をお願いしています。今回、お話を聞く機会を得ましたので奮ってご参加下さい。

日 時： 平成18年7月7日（金）

午後4時30分～5時30分

場 所： 新4階（西）セミナー室（C-469）

連絡先：生体機能設計化学研究領域

二木 史朗

電話 内線 3210

E-mail futaki@scl.kyoto-u.ac.jp